

膿汁を認めた。腸腰筋筋鞘を右腎レベルまで切開した。腸腰筋を開放洗浄し、ドレーンを挿入手術を終えた。術中の膿の培養からは *E.coli* と *Bacteroides fragilis* が検出された。術前からショック状態となり、更に術後 ARDS, 敗血症性ショックに陥り人工呼吸管理, PMX-DHP, ステロイドパルス等を開始した。術翌日血圧低下, 脈拍低下し心拍停止となった。蘇生を行ったが反応なく死亡となった。剖検を行ったが, 死因は敗血症の診断であった。

4 当科における虫垂炎治療の検討

小柳 英人・谷 達夫・宗岡 悠介
加納 陽介・利川 千絵・内藤 哲也
長谷川 潤・島影 尚弘

長岡赤十字病院外科

【はじめに】虫垂炎に定まった治療方針はない。

【目的】当院における虫垂炎の治療成績を明らかにし, 今後の治療方針を検討する。

【対象】2010年1月から2012年12月までに虫垂炎の診断で入院治療を行なった症例。

【方法】後ろ向きにカルテ調査を行い, 病歴, 治療方法, 再発率, 入院日数等の臨床因子を比較検討する。

【結果】一次性虫垂炎は170症例196入院, 二次性虫垂炎は4症例4入院。一次性虫垂炎の初発は150症例。初発入院で手術を行なったのは60例(40%)で, その手術適応の内訳は汎発性腹膜炎2例(3%), 保存治療増悪例16例(27%), 医師の判断または本人希望39例(65%), その他3例(5%)。2010~2011年の初発保存治療59例中, 2013年4月までに再発したのは15例(25%)で, 内6例が再発入院時に本人の希望で手術施行。再発3例は待機的切除を行なった。

【考察】虫垂炎の多くは保存治療が可能であるが, 社会的適応や医療経済を考慮した治療法の選択が必要と思われる。

5 抗生剤使用回数の違いによる急性虫垂炎保存治療成績の比較

河合 幸史・蛭川 浩史・佐藤 洋
佐藤 大輔・岡村 拓磨・田中 亮
蜂須賀 健・多田 哲也

立川総合病院外科

我々は2010年7月以降, 急性虫垂炎保存治療における抗生剤(FMOX)の使用法を, 徐々に2回/日から3回/日に移行してきた。今回投与法の違いによって治療成績に差があるか検討。

【対象と方法】2010年7月以降, 当院で急性虫垂炎の診断で緊急入院となった患者のうち, 入院日当日に緊急手術となった症例を除いた保存治療症例105例について調査。105例のうち90例で入院日からFMOXが使用されており, このFMOX治療群のうち, 病状悪化により抗生剤変更または手術となってしまった症例を失敗群, FMOXのみで改善した症例を成功群とし, FMOXの2回/日と3回/日で両群の割合に統計学的有意差があるかを調べた。

【結果】両群背景因子に有意差はなく, 3回投与群で有意に成功群の割合が高かった。(p値0.0174)

【結論】急性虫垂炎保存治療でFMOXを選択した場合2回/日より3回/日が推奨される。

6 当院における虫垂炎治療の現状と保存治療の可能性について

峠 弘治・小山俊太郎・田中 典生
塚原 明弘・丸田 智章・池田 義之
下田 聡

県立新発田病院外科

近年, 単純な急性虫垂炎は抗生剤治療のみで虫垂切除と同等の有用性が報告されている。虫垂炎の保存的治療の有用性と限界を検討する目的で初診時CT上糞石, 穿孔なく保存的治療の適応と考えた28例について後ろ向きに調査した。

28例中, 25例は保存療法を完遂, 3例は手術に移行した。保存療法を続ける指標として①翌日の